

**補正予算財源で ODA 見直し論 ～今こそ国際協力を～**

東日本大震災の復旧・復興に向けた 2011 年度の第一次補正予算案が検討されている。3 兆円を超えるとの見通しがある中、その財源確保について様々な議論が行われている。

中でも 4 月 6 日に流れたニュースに危機感が募った。政府、民主党が、今年度の予算に計上している 5,727 億円の ODA（政府開発援助）の見直しを検討しているというものだ。ODA から約 1,000 億円の財源捻出を期待する声が出ているとのこと。民主党の岡田幹事長は、外務省に対し 20%程度の削減を検討するよう求めている。ODA 予算は 2000 年から 12 年連続で減少。仮に 2 割減となれば総額は 4,581 億円となり、1982 年の水準に落ち込む。複数年事業の一時中断も余儀なくされる。

すでに 1 年前に被災したハイチを含めた 134 の国と地域が、今回、日本への支援を表明してくれた。これまでの日本の ODA の成果と言って間違いはない。7 日に高橋千秋外務副大臣が、「日本の国際的地位を維持するためにも ODA を通じた国際協力は着実に進むべきだ」と述べているが、ことこれに尽きる。

4 月 2 日から 6 日まで、白須事務局長が津波の被害を受けた岩手県を訪れた。釜石、遠野、陸前高田、大槌というルート。「目を覆いたくなる光景、鼻を押さえたくなるような異臭が被害の大きさを物語っている、報道なんかのレベルじゃない。」次ページに現地の写真を掲載しているが、がれきの山が続く被災地も、海は穏やか、空は透き通るように青い。事務局長のカメラには、そのなんと対照的な光景が収められていた。

今だ、避難所生活を送っている訪問先の方々から聞こえてきた言葉に胸を打たれたと白須事務局長は話した。「日本だけではない、世界中の人々からの支援に感謝しています。」「スマトラやハイチ、この前のニュージーランドの地震で被災した人々も本当に大変だったんだね。」「ニュースで見た世界のことが、今は自分のことのように思えるよ。」

今回の震災復旧、復興が急務であることは間違いはない。しかし、こういう時だからこそ、世界が「共に考え、共に歩むこと」に私たちは気付かなくてははいけない。政府の方針にある「人間の安全保障」の普及と推進はここから始まるのではないだろうか。



\*2009 年 インドネシア・スマトラ島沖地震  
家が全壊し、テントで暮らす人々  
(c) NPO 法人 難民を助ける会



\*2010 年 ハイチ地震  
復興に向かう街の様子  
緊急医療対策を行う仮設テント  
(c) NPO 法人 アムダ



\*2011 年 ニュージーランド地震  
被災地での医療支援の様子  
(c) NPO 法人 アムダ



## 被災地は今…

4月2日～6日 岩手県釜石市、遠野市、陸前高田市、大槌町（白須事務局長）



\*壁に乗り上げたトラック



\*がれきを掘り起こす人々



\*自衛官への感謝の声が多く聞こえた



\*安否確認マークの横に書かれた連絡先



\*捜索はまだ続く(警視庁の方々)



\*被害にあった大槌町役場



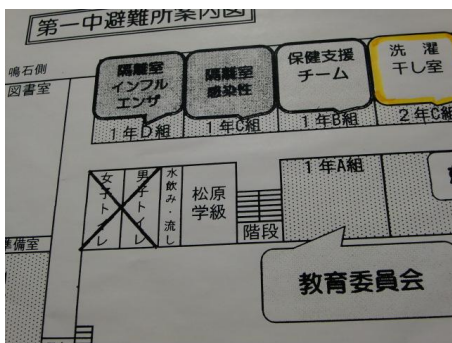
\*津波の来襲で止まった時計



\*加工工場から流出した魚



\*街はもはや原型をとどめていない



\*避難所内部



\*でき始めた仮設住宅



\*救急車のサイレンは途切れず